

令和2年度後期始業式式辞 ～「違いは豊かさ」

皆さん、お早うございます。今日から後期が始まります。前期の終業式では、皆さんの日常生活に即して「前日×101%」の努力を期待する話をしました。今回は少し目線を上げて遠くを眺めてみたいと思います。キーワードは、「違いは豊かさ」です。

現代という時代の特徴は、まだ社会に出ていない皆さんには分かりにくいことかもしれませんが、AIやグローバルという言葉に代表される、歴史上、最も変化の激しい、また最も多様性に富む社会となっています。その中で、日本人は同質性が高いとされ、「周りと同じ」であることに安心を感じる場合が少なくありません。そこでは、チガイは「マチガイ」とでもいうかのように、違うことが否定的に捉えられているように思います。

しかし、「多様性に富む現代社会」では異質なものと積極的に交わっていかなくてはなりません。そういう社会にこれから出ていく皆さんには、違いは、豊かさにつながる「良さ」だという考え方をもってもらいたいと思います。

早速、「違いは豊かさ」について、例を3つ挙げてみます。1つ目：物質の化学反応では、水素をいくら集めても水素でしかありませんが、それに違う原子の酸素を加えると、 H_2O ・新しい物質の水になる可能性があります。2つ目：沖縄の蝶の産卵期は、本州の蝶に比べ、一年を通じてバラバラだといえます。どうしてだと思いますか？ それは、台風が頻繁に来る沖縄では、産卵期をバラバラにして生物種として全滅しないようにしているからです。3つ目：鉛筆の芯に使われている炭素は地中のマグマの熱や圧力がかかると一定の条件下でダイヤに変わります。同じモノが異なる条件で全く別のモノになる例です。

ここで、なぜ皆さんに異質なモノや条件との出会いを奨めるのかというと、皆さんは、高校入試という選抜で無意識にも、そして否応なくにも同質の集団になっている、ということに気付いてもらいたいです。同質の集団は、メリットとしてまとめやすいし、授業でも一斉学習が効率よくできます。その一方で、デメリットとして無意識に異質なものを排除しがちになっている場合もあります。

多様性の社会に生きる私たちは、同質のこうしたメリットとデメリットを理解したうえで、積極的に異なるモノを受け入れていく姿勢が大切です。自分にはない良さに気づいたり、より自分を高めるきっかけにしたりすることができるからです。北高生には、水素と酸素で水ができるように、また厳しい条件下で炭素がダイヤに変わるように、異なるモノとの出会いを通して新しい自分を生み出してほしいと思います。

皆さんには教科の学習に主体的に取り組むとともに、校内では部活動やチューター制など先輩後輩の交流を、また校外ではボランティア活動への参加や他校生徒との交流などいろいろな人の考えに触れる機会を積極的にもつようにしてもらいたいと思います。そして、この矢印（「↑」+「⇄」）のように、自分を上に伸ばしていくのと並行して、異なるものと交わり、自分自身を横に「太く、丈夫に」していくイメージをもってもらいたいと思います。

終わりに、今回は「チガイはマチガイではなく、豊かさ」ということについて話をしました。北高生には、学校行事などを通して同質集団の中にある「温もり」を味わいつつ、異なるモノをドンドン吸収しながら「新しい自分に出会う楽しさ」を実感してもらいたいと思います。これから実りの秋。一人一人にとって自分の限界を膨らませていく、そういう秋にしてもらいたいと思います。